正しくおこなうための工夫がある、犬フィラリア症予防薬。

動物用医薬品 犬糸状虫症予防・消化管内線虫駆除剤 要指示

カルドメック® チュアブル P

（イベルメクチン／パモ酸ピランテル）

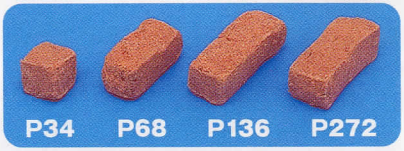
®カルドメックはメリアルの所有登録商標

犬回虫・犬鉤虫も同時に駆除できる

犬回虫・犬鉤虫は、消化管内に寄生し腸内に卵を生むので、卵は糞と一緒に排出されます。回虫卵は土の中で長い間感染力を保ち、鉤虫卵は地中で孵化して幼虫となります。回虫や鉤虫は母犬の胎盤や母乳から子犬に感染することがあり、特に鉤虫の幼虫は皮膚からも感染する能力があります。また、犬回虫・犬鉤虫は人にも感染する寄生虫です。

与えやすい角切りビーフみたいなお薬

食べやすいソフトタイプのチュアブル剤なので、ほとんどの犬が自ら進んで摂取してくれます。薬が苦手な犬にもストレスを感じることなく投薬することができます。



製品のお問合せは（通話料無料） **0120-499-419**

- 月曜日～金曜日
- 9:00～12:00/13:00～17:00

※お電話によるご注文は承っておりません。

●毎月の投薬日をメールでお知らせ

登録はコチラ **カルドメック投薬日お知らせサービス**
http://cardomec.jp.merial.com/reminder/

病院名・電話番号

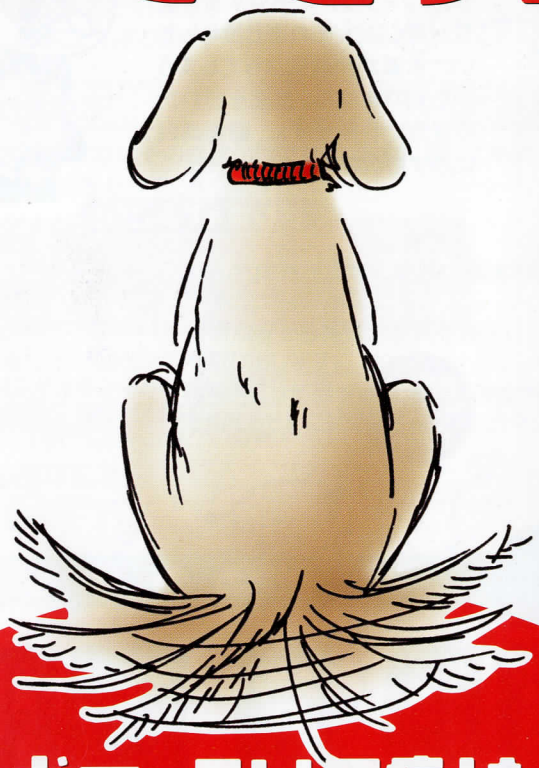
■販売元 日本全薬工業株式会社 ZENOAQ
福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1

■製造販売業者 メリアル・ジャパン株式会社
東京都千代田区永田町2-14-2

■提　携 メリアル MERIAL
www.merial.co.jp

R100 RECYCLE PAPER
（06.3.1,000,000）

犬フィラリア症予防 100%をめざそう！



犬フィラリア症は死に至る病気です。

犬フィラリア症は放置すれば死に至ることもある病気。
犬の苦しみや負担も大きく、だからこそ
おそろしく悲しみの大きな病気なのです。

フィラリア症のライフサイクルと予防の仕組み

蚊の体内

蚊がフィラリア感染犬を吸血した際、ミクロフィラリアが蚊の体内へ入る

蚊の体内で幼虫が発育

幼虫を持った蚊にさされる

感染犬

非感染犬

犬の体内

（感染から成虫になるまでおよそ6ヵ月）

幼虫

幼虫が体内に入る

体内で2～3㎝の幼虫に発育

血管に入り、肺動脈や心臓に移動し寄生

肺動脈や心臓で17～28㎝の成虫に発育

ミクロフィラリアを産出

蚊は気温が約14℃以上になると吸血活動を開始すると言われている。

蚊に刺されて体内に入ってしまったフィラリアの幼虫を1ヵ月後にまとめて予防薬で駆除する。

蚊を見なくなったと思われる日から1ヵ月後に最後の投薬をして、そのシーズンの予防が終了する。

とても大切な投薬

蚊を見かける

蚊の活動期間（感染期間）

蚊を見かけなくなる

体重測定、検査など

幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除） → 幼虫が体内に入る → 投薬（駆除）

最初の投薬

予防期間（投薬期間）

最後の投薬

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

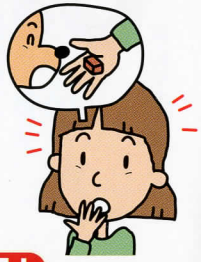
※4月上旬頃蚊が見かけられ始め、11月中旬を最後に蚊が見られなくなった場合の投与例。
※地域によって差がありますので、獣医師の指示に従って投与してください。

フィラリア症にさせてしまうのは「飼い主の責任」

フィラリア症は、きちんと予防すれば100%予防できる病気です。予防効果が100%の薬があるのに、フィラリア症になったとすれば、それは飼い主の責任。大切な愛犬を守るために、フィラリア症予防の知識を身に付けてください。

途中で投薬(予防)を忘れてしまったら

予防の途中で投薬を忘れてしまうと、フィラリアに感染する可能性が高くなり、それまで投与していたお薬が無駄になってしまうかも知れません。投薬を忘れたら自分で判断せずに、動物病院に必ず指示をあおぎましょう。



ぜひ覚えておこう!

予防薬は幼虫の段階でフィラリアを駆除することで、フィラリア症を予防します。

最後の投薬(予防)をしなかったら

最後の投薬をしないと、フィラリアに感染する可能性が高くなり、それまで投与していたお薬が無駄になってしまうこともあります。涼しくなっても自己判断で投薬をやめてはいけません。動物病院の指示通り最後まで必ず投薬を続けましょう。

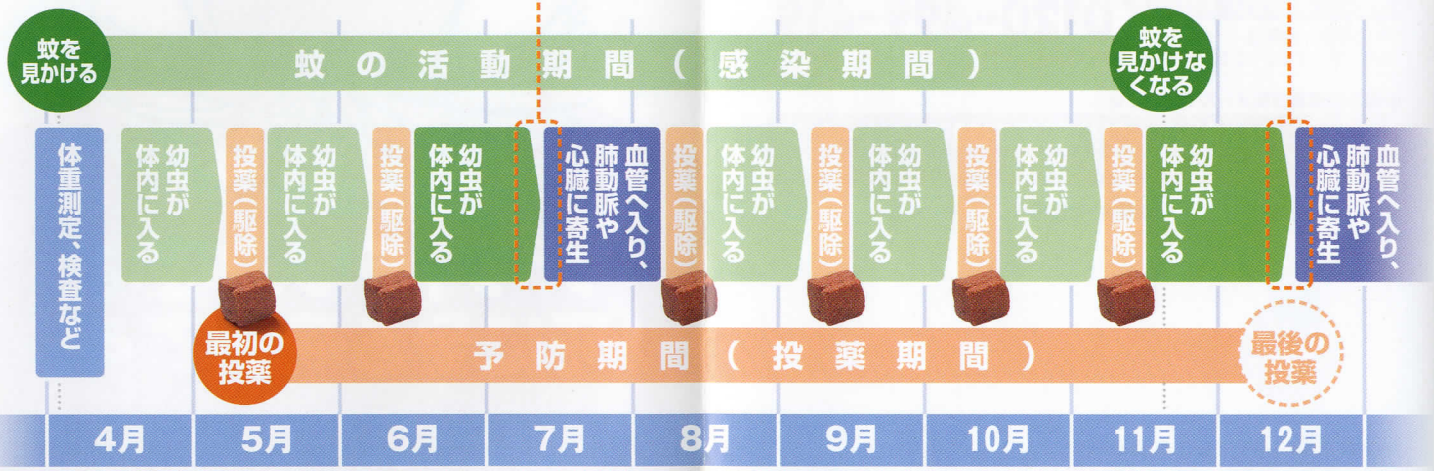
ぜひ覚えておこう!

最後の投薬はとても大切。忘れると、全ての投薬が無駄になってしまうことも!

投薬日を忘れないために

毎月の投薬日をメールでお知らせします。ぜひ、ご利用ください。(登録・ご利用は簡単、しかも無料! パソコンからどうぞ)

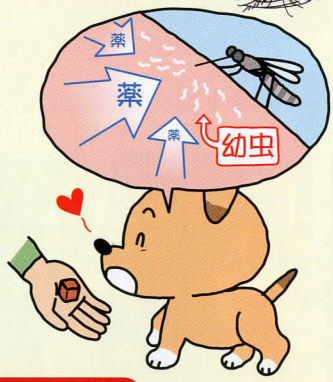
カルドメック投薬日お知らせサービス
http://cardomec.jp.merial.com/reminder/



※4月上旬頃蚊が見かけられ始め、11月中旬を最後に蚊が見られなくなった場合の投与例。
※地域によって差がありますので、獣医師の指示に従って投与してください。

正しくおこなえない理由2 予防薬の効き方がわかりにくい

犬がフィラリアに感染する期間は、蚊の活動期間と重なります。しかし、予防期間はそれと同じではなく、感染開始1ヵ月後から感染終了1ヵ月後までです。すべての予防薬は体内に入ったフィラリアの幼虫を駆除し、成虫にさせないことでフィラリア症を予防しています。



ぜひ覚えておこう!

フィラリア症予防薬は、体内に入ったフィラリアの幼虫をまとめて駆除することで、フィラリア症を予防します。

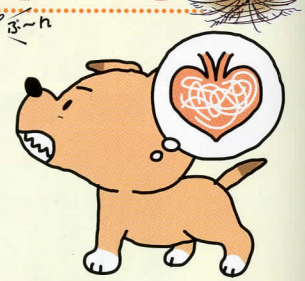
これがフィラリアの成虫だ!

雄の成虫(約17cm)

雌の成虫(約28cm)

正しくおこなえない理由1 病気のこわさを軽く考えている

フィラリアは蚊が媒介する代表的な犬の寄生虫です。糸状のフィラリアが心臓や肺の血管に寄生することで、からだに様々な障害を引き起こします。犬への負担も大きく、放置すると死に至ることもあります。



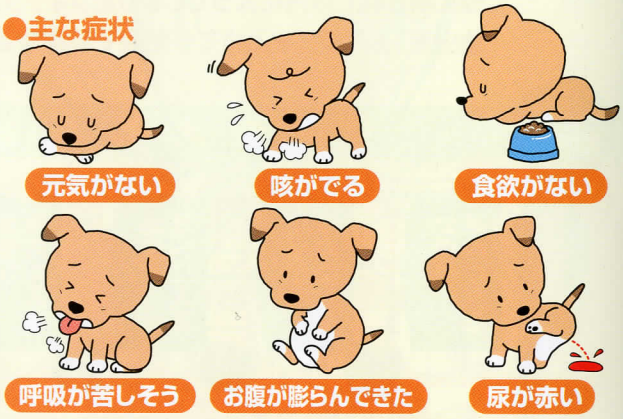
治療には大きな負担が…

フィラリア症はその症状だけでなく、治療に際しても愛犬に大きな負担をかけてしまいます。

●フィラリア症の治療方法

薬による駆除	死んだ成虫が血管に詰まり、重篤な症状となることもあります。
手術による駆除	首の血管から特殊な器具を挿入して、成虫を取り出します。
成虫の寿命をまつ	積極的には駆除をせず、成虫が死ぬまで症状を抑えるために対症療法(投薬など)をします。

●主な症状



ぜひ覚えておこう!

フィラリア症の治療には負担が伴います。愛犬を苦しみから守るには、予防が最善の方法です。